

⑩層は、粗粒の砂層で、海岸に見られるような小さい円レキが含まれており、円レキの並び方に注意すると、円レキの並び方は、交わったり、曲がったりした模様をえがいています。この模様を、斜交層理、または、偽層と呼んでいます。

2. 川原のようすと流水のはたらき

(1) 調べる場所

渋川東田橋

(2) 川原の全体のようすと観察する。

① 土手の上から、水の流れ、草の生えている川原など、川の全景をスケッチする。



② 川が大きく曲がる付近で川原は外側にできているか、内側にできているか、別の曲がる場所でも調べてみる。

(3) 川原において、流水のはたらきを調べる。

① ㉞, ㉟の付近で、それぞれ10mの長さを取り、流れの速さを調べる。

② 水中のぞき箱で、川底の様子を調べる。㉞, ㉟付近でどう違うか。

㉟の付近の川底は円レキがつもっており、㉞の付近は、砂がつもっている。流れの速さとどんな関係になっているか。

③ 水中のぞき箱で㉟の川底をのぞき、砂やごみが、川底にそって下流に流れていくようすと観察する。

